



郵政産業 ユニオン

発行所 〒170-0012 東京都豊島区上池袋2-34-2
TEL 03(5974)0816 FAX 03(5974)0861
http://www.piwu.org e-mail:mail@piwu.org
発行責任者 廣岡 元徳

〈購読料〉1部250円(送料共) 年間2500円
郵便振替口座 00120-5-120809
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

郵産労と郵政ユニオンが組織統一

労働者の未来託す

郵政産業労働者ユニオンが誕生

期待にこたえ新たな前進へ

郵政産業労働組合と郵政労働者ユニオンの統一大会が7月1日、日本青年館(東京)で開かれ、郵政産業労働者ユニオンが誕生した。両労組は、2004年から一致する要求課題での協議を開始して以降、05年の民営化反対の運動をはじめ、民営化の抜本見直しや非正規社員の均等待遇・正社員化など一致する要求で奮闘をたたき、協力・共同のとりくみをすすめてきた。JP労組の労使一体化がいつそすすむなか、すべての郵政関連労働者の雇用と労働条件を守り発展させるうえでナショナルセンターの違いを越えた統一は、職場内外から大きな期待をされている。

両労組を代表して廣岡元徳委員長は、「日時に金力②非正規社員の勤務日数・時間数削減③一方的な雇止め」を強行するなど、労働者の生活・労働条件は、事業会社の赤字を削減③一方的な雇止め



郵政産業労働者ユニオンの結成の意義について語る廣岡委員長



新しいロゴの入った組合旗が披露された

対決し労働条件の向上と正社員化の流れをさらにすすめる運動を展

「経営の側に立ち労働者に痛みを押しつけてきたか、雇用を放棄するの、雇用を守り賃下げ攻撃に真っ向から

さらに廣岡委員長は、「経営の側に立ち労働者に痛みを押しつけてきたか、雇用を放棄するの、雇用を守り賃下げ攻撃に真っ向から

討論では、「共同行動を積み重ね、信頼を築いてきた」非正規社員の労働条件改善にむ



大会で議長を務めた板敷(左)・家門(右)代議員

大黒作治議長と全労協の金澤壽議長がかつて

ポスト

大飯原発再稼働決定に国民の怒りが爆発し、6月29日の首相官邸前には20万人もの市民・労働者が参加し抗議した▼政府の再稼働決定は、脱原発という国民の意識や行動から大きくかけ離れており、国民からきびしい非難をあびるのは当然である▼郵政党内でも反撃が始まっている。成果主義を拡大し、労働者に更なる競争と分断を持ち込む会社提案の「人事・給与制度」に対し、JP労組委員長は、「頑張ったものが報われる賃金制度」と主張したが、全国大会では20%の批判票が出た▼いま時代は、弱い立場で働き、職場で悩む労働者一人ひとりの問題を組織全体が包み込んでとりくむ労働運動を求めている▼こうしたなか、全労連・全労協というナショナルセンターの違いを越えて郵政産業労働者ユニオンが結成された。これまで統一に努力された各位に心から敬意を表したい▼この歴史的な事業の成功は、必ずや労働組合運動の共同の流れを加速し、階級的な統一を前進させる契機となるだろう▼郵政党内における多数派形成という壮大な展望に向かって、新たな挑戦が始まった。

新たな歴史のスタート

労働組合本来の役割しめす 仲間を増やし元気に

郵産労と郵政ユニオンは、統一に向けて各々が6月29日から30日まで全国大会を開き、①この間の経過報告②統一に至る確認事項を一票投票で採択し、7月1日の統一大会を迎えた。結成大会は、双方の代議員74名が参加し、2012年度運動方針案等を討議した。討論では、統一を前向きにとらえ、さらに前進する決意が述べられた。

運動で信頼きざぐ

○豊田代議員(近畿) 郵政ユニオンと共同の運動をすすめて足掛け3年、6回の協議を経て、7月29日に大会を開催する。非正規組合員が3割を超えることとなるが、100名を超える非正規組合員が共同のストや25日ハングアストなどに何ら



大会で開会のあいさつに立つ松岡幹雄副委員長



この歴史的な大会に参加できたと発言する平岡代議員

か形で参加するなど労働組合の原点を感じた。新たな組織が、一層の正社員化・均等待遇に力を入れ、声なき声を拾い広めるために先頭に立つ決意だ。○向井代議員(九州) 福岡と長崎と離れたなかで準備が遅れてきたが、9月2日に大会を迎える。協議には十分時間をとり進め、自身の濃い建設的な意見が出てくる。いま、一番意思疎通ができていない。「赤字」を背景に雇止めが行われ、撤回を求めて裁判を起している。新たな組織で、各地の職場労働者をつなぐ「灯台の灯」となるよう奮闘する決意だ。○鈴木代議員(東海) と団結してたたかうことが大事。新生九州地本は、その先頭に立つてがんばる。

始まり、11年3月に勝利・和解した「伊豆高原郵便局パワハラ事件裁判」の支援活動は双方の信頼を深め、東海の礎となった。統一は、現在、職場復帰に向け頑張っている山田さんの願いであり、統一を心待ちにしていただけたらとたくさんいいる。新生東海は出会いを大切にして新たな仲間を増やし、8月5日の大会を迎えたい。

○繁田代議員(近畿) 日本郵便輸送で働くが、もっと日本郵便輸送のことを知ってほしい。私たちの職場では、数年前に事業所統合時に基本給が下げられ、代わりに手当が付いたが、現在、その手当が削減され年収は大幅ダウン。それが郵政の職場に波及してきている。○高井代議員(東京) 39回に及ぶ定期協議を開催し、共同行動やレクなどで7月22日の統一に向けた交流を図ってきた。JP労組と会社が一体となった攻撃に対し、労働組合本

来の役割が重要。この統一は、日本の労働運動の大きな前進につながる。JP労組の分断攻撃に対しては、組織の強化拡大で跳ね返り、要求実現に向け頑張る。○成山代議員(近畿) いまの政治とマスコミが国民と正反対の方向に動いているなか、まともな労働組合が統一して元氣よく活動することが、社会を前進させることにいく力になることを確信している。ポーンスカットを言っても非正規労働者からは支持されず、ここに温度差がある。非正規労働者の正社員登用の道を閉ざさず、約束を履行させる運動の先頭に立つ決意を表明する。



満場一致で大会議案が採択され運動方針が確立された

- 決まったこと**
- 1 郵政公共サービス拡充では、三事業一体経営と金融・通信のユニバーサルサービスを守り、国民のための郵政事業を確立するとともに郵政労働者の労働条件の改善をめざす。
 - 2 非正規社員の正社員化と均等待遇実現
 - 3 人事制度改悪のたかひは、①要求書の提出と交渉②問題点の暴露と宣伝③狙いをつ

- 自分が新労組結成の場に立ち会えて、感激・光栄に思っている。中国でも共同行動をすすめてきた。8月26日という遅い大会となるが、スムーズにいよいよ準備していききたい。
- 平岡代議員(中国) ナスカットを言っても非正規労働者からは支持されず、ここに温度差がある。非正規労働者の正社員登用の道を閉ざさず、約束を履行させる運動の先頭に立つ決意を表明する。

- 統一大会代議員**
- 郵政労働者ユニオン
- 東京地方本部 石川喜久(東京南部) 藤野幸夫(東京南部) 福田秋彦(東京東部) 有賀 仁(多摩地方)
 - 関東地方本部 上原正光(神奈川) 佐藤修作(神奈川) 安田賢一(千葉) 田中英樹(埼玉) 大橋芳幸(駿河) 森 広治(栃木)
 - 東海地方本部 鈴木尚朋(浜松東) 森下 茂(浜松) 渥美一輝(浜松)
 - 新潟支部 泉田隆一(新潟)
 - 近畿地方本部 岡本祐介(洛北) 下村正一(城東) 山田雅之(城東) 繁田哲夫(郵便輸送) 濱田由起子(大阪西) 家門和宏(大阪北) 山下伸生(大阪北) 小田 諭(大阪北) 三木謙吾(神戸東播) 大澤靖志(神戸東播)
 - 香川支部 加藤久雄(香川)
 - 高知支部 小松秀基(高知)
 - 中国地方本部 平岡 清(呉) 藤原幸夫(呉) 増見新次(呉) 三嶋研二(広島東) 尾崎幸雄(広島東) 松田 清(安芸府中) 久藤勝宏(広島中央) 竹本和友(広島中央) 小倉博司(岡山) 萩原和也(岡山)
 - 九州地方本部 向井 宏(長崎中央)
- 山田武明(長崎中央)
- 郵政産業労働組合
- 北海道地方本部 飯田勝則(苫小牧) 菅原 昇(小樽)
 - 東北地方本部 佐々木正美(函館) 高根 登(盛岡)
 - 関東地方本部 田澤幸男(横浜集中) 深山信雄(千葉) ●東京地方本部 宮城忠雄(東京南部) 郡 公一朗(目黒)
 - 東海地方本部 鈴木清美(大泉) 渡辺誠二(小石川) 菅野ア子(東京特定) 高井道典(新東京) 亀尾 修(新東京) 小泉逸郎(葛飾新宿) 杉山とよえ(東京通病) 水上政樹(東京多摩) 堀川宇喜文(玉川) 笠間司平(杉並南) 岩淵末次(銀座) ●東海地方本部 内海美穂子(名古屋貯金)
 - 近畿地方本部 豊田 隆(大阪) 大神栄一(新大阪) 森田敏明(西淀川) 田村豊彦(枚方) 板敷浩史(西宮) 古橋建夫(姫路) 成山太志(神戸中央) 伊澤 彰(神戸中央) 川端晃一(京都中央) 西垣光男(京都西) 左近幸広(北桑田) 吉岡賢二(京都特定)
 - 中国地方本部 辰巳義信(広島) ●四国地方本部 筒井 潤(高知)
 - 九州地方本部 田尻哲一(福岡中央) 米地輝高(福岡中央)

全労連・全労協からのあいさつ

大黒作治議長(全労連)



大黒作治議長(全労連)の再稼働問題やTPPも根っこは

郵産労と郵政ユニオンが、民主化も前進させてきたものの組織統一は歴史的なもので、両労組は、ともに郵政労働者の要求実現や労働条件の改善、国民のための郵政増税や社会保障制度を切捨てる「税と社会保障の一体改革」をすすめており、国民の生存権を守るため、たいたいが求められている。再稼働問題やTPPも根っこは

金澤 壽議長(全労協)



金澤 壽議長(全労協)の郵産労と郵政ユニオン

野田内閣は、消費増税や社会保障制度を切捨てる「税と社会保障の一体改革」をすすめており、国民の生存権を守るため、たいたいが求められている。再稼働問題やTPPも根っこは

たかが広がり、まともな日本社会をつくる大きな流れとなつてい

に立つてほしい。全労連と全労協の議長は、結婚式でいえは仲人役。困難もあるだろうが、要求で団結して運動を前進させてほしい。

は、労使協調路線に舵を切り、「連合」を結成した。労働戦線は大きな困難を抱え、全通・全郵政に組まない労働組合をそれぞれ結成した。

は、崩壊の過程に入り、民主党政権がこうした状況に至った原因の一つに雇用問題がある。雇用の改善をやる。郵産労と郵政ユニオン両労組に敬意を表す。いよいよ野田政権運動の二翼を担った全通など多くの労働組合

新三役紹介

廣岡元穂委員長

(東京・小石川支店)



廣岡元穂委員長(東京・小石川支店)

郵政職場の労働実態が大きく変化するもとで、従来の発想を転換し幅広い労働者に対して求心力を持つ組織の建設は、今日の運動に責任を持つ私たちの歴史的任務です。新組織の前進をかちとりましょう。みなさんとともに奮闘する決意です。

結成を契機に、ナショナルセンター

松岡幹雄副委員長

(大阪・豊中支店)



松岡幹雄副委員長(大阪・豊中支店)

労働者犠牲による経営側の大リストラ攻撃が強まっています。新組合は、経営と御用労組に抗して統一と団結の時代の幕開けを高らかに宣言しました。全別ユニオン運動をともに発展させましょう。

抗議の声をあげました。大会の間を縫って参加しましたが、組合の旗を見てついでに、組合員が相次いで

須藤和広書記長

(東京・芝支店)



須藤和広書記長(東京・芝支店)

郵政産業労働者ユニオンが山積しています。それは一つ一つ解決していくのがユニオンです。同時に労働者同志が差別しない、団結すること、古今東西、資本家・支配層オンの大きな課題です。「ひとり」を大切に。まずは、組織拡大

強化です。そして、職場には問題

山下芳生参院議員(日本共産党)組織統一といえども、一つ屋根の下で違いは出てくる。互いの溝を埋めながら仲の良い「家庭」を作ってほしい。新労組には、①郵政職場の暮らしと権利を守る②三事業一体・通信と金融のユニバーサルサービスを守る③労働運動の発展の三つを期待したい。

分野の新しい発展に つながる。秋尾健太弁護士(渋谷共同法律事務所)65才定年雇止め裁判は7人の弁護士で対応してきた。1万4千人の首切りは許されず、千人くら

弁護団。20万人が集まった官邸前の集会を見て安保闘争を思い出した。ナショナルセンターを越えたたたかう郵政労働運動に期待する。川上幸治委員長(郵政倉敷労働組合)

つていきたい。稲岡次郎代表(非正規センター「ゆい」)

他、全労連の小田川員長、全労協全国一般や「許すな憲法改悪市民連絡会」の高田健さんからも祝辞が寄せられました。

レセプションで寄せられた祝辞

菊池 紘弁護士(城北法律事務所)深夜勤裁判や事務室獲得に携われたのは弁護士の誇り。勝てる弁護士菊池と革命的弁護士秋尾がタッグを組めば最強の

の原告団にした

本来なら、我々も組織統一しなければならなかったのだが、統一できなかったのは残念。いずれは、郵政分野での組織統一に向かってがんばっていかねばならない。力不足だが、今後もがんば

が、JP労組は「やつても意味がないからやめておけ」と苦情を抑える役割を果たし、第二の労務部隊となっている。

前田直哉秘書(社会民主党)ナショナルセンターのの違いを越えた統一を支持したい。非正規労働者の労働条件改善や雇止め撤回をとめたたってきた。この組織統一は、すべての労働

大会後開かれたレセプションには、250名が出席。この

様々な団体から多くの方が駆けつけて祝っていただきました



その他の役員

書記次長 日巻直映(東京・板橋北)、天野美奈子(大阪・城東)、執行委員 安達幸人(東京・世田谷)、上田秀世(京都・向日)

町、上平光男(東京・船津)、目黒、兼子(東京・山岸)、杉並南、上関英穂(広島・広島)、倉林浩(東京・王子)、鈴木英夫(静岡・浜松)、高口美和子(長崎・長崎)、栄寿(東京・晴海)

原発も基地もない平和を

核廃絶・反戦平和を

広島・長崎の想いを全国へ

沖縄・ピースサイクル

23年目を迎えた沖縄ピースサイクルが、6月22日にスタートしました。大阪、広島、大分、島根、沖縄から参加者が集合し、まず本島北部やんばる、東村高江のヘリパット建設予定地で座り込みを続けるデモに出かけました。「住民の合意」からの報告によると、地元でもMV22オスプレイ配備反対の声が高まり、現在は県内で9割の人が反対しているとのことでした。

その後、テントでの座り込みが今年7月5日で3000日を迎える辺野古に移動しました。ピースサイクルも座り込みや海上阻止行動などをとりくんできましたが、今後も新基地建設阻止にむけ、ともにたたかうことを確認しました。

翌日、那覇から南部の糸満市まで自転車で行き、「第29回国際反戦沖縄集会」に参加しました。沖縄大学の桜井国俊さん(環境学)が、震災瓦礫と辺野古アセスについて講演を行い、与那国島への自衛隊配備、第32軍司令部壕の説明問題、靖国訴訟、高江基地建

設、泡瀬干潟の埋め立て、自衛官暴行死訴訟に関し、それぞれアピールがありました。海勢頭豊さんと、まよなかしんやさんの歌などが披露され、内容も多彩でした。

25日は、東恩納さん「じゅごんの里」号で海上視察を行い、あらためて辺野古の美しい海を堪能することができました。普天間基地前の広場でオスプレイ配備反対と基地撤去を求めて座り込みを続ける宜野湾の島田善次牧師らを激励し、那覇空港に向かいました。

平和集会お知らせ

これまで郵政労働者とナガサキで一年おきの平和交流集会は、組合に交互に催されてきた。今年は8月5日



広島郵便局職員殉職の碑に折り鶴を献納する



沖縄各地で反戦・反基地・反原発などを訴えました

2012沖縄ピースサイクルは、県内各地の運動と交流して終了しましたが、今後もピースサイクルは、8・6ヒロシマ、8・9ナガサキをめざし反戦、反基地、反原発などを訴えて全国を自転車行進します。是非、ご支援、ご協力をお願いします。

交流会

○集合場所 『広島郵便局職員殉職碑』付近：「ミニ集会」折り鶴献納」を催します。(原爆ドーム南側・元安橋東詰め/オープンカフェが目印)

①慰霊碑を巡る自由策交流集会の集合時間まで自由に慰霊碑を巡っていただきます。(広島支部からガイド付添いはありません。)

②ガイド付「碑巡り」参加の方は、原爆資料館下に16時集合。広島支部OBの隆杉晃さんのガイドで慰霊碑を巡ります。※行程はおよそ40〜50分程度を予定しています。

2007年10月1日、郵政民営化を小泉構造改革の本丸として位置づけ、「官から民へ」の象徴として押し進めてきた影響は、国民生活に大きくならない郵便・貯金・保険の三事業をバラバラにし、「国民の経済生活の安定と福祉の増進」を実現する事業から、利益を追求する事業へ変質させサービスタワーと分社化による弊害を生み出した。

郵政民営・分社化の見直しを求める声と私たちの運動は、「経営感覚がない」と実質的に反対する立場を表明、郵政関連労働者の要求や苦しみに向かい労使を向け労使一体化路線を突き進んでいる。

いま、日本郵政グループには20万人を超える非正規社員が働き、国民生活に響いてはならない仕事を行なっている。その労働実態は、年収200万円にも満たない低賃金、人間を人間として扱わない雇用形態、郵便事業会社の赤字を口実とした、65歳定年制の実施や雇止めなど、多くの非正規社員が職場を奪われた。

こうした職場状況のもとJP労組は、日本郵政に対し赤字問題についての経営責任を放棄し、郵政民営化見直しでは株式の早期売却を求め、多くの非正規社員が望んでいる正社員登用では「経営感覚がない」と実質的に反対する立場を表明、郵政関連労働者の要求や苦しみに向かい労使を向け労使一体化路線を突き進んでいる。

赤字を口実とした、65歳定年制の実施や雇止めなど、多くの非正規社員が職場を奪われた。こうした職場状況のもとJP労組は、日本郵政に対し赤字問題についての経営責任を放棄し、郵政民営化見直しでは株式の早期売却を求め、多くの非正規社員が望んでいる正社員登用では「経営感覚がない」と実質的に反対する立場を表明、郵政関連労働者の要求や苦しみに向かい労使を向け労使一体化路線を突き進んでいる。

経営の側面に立ち労働者に痛みを押し付けてきたか、超える非正規社員が働き、国民生活に響いてはならない仕事を行なっている。その労働実態は、年収200万円にも満たない低賃金、人間を人間として扱わない雇用形態、郵便事業会社の赤字を口実とした、65歳定年制の実施や雇止めなど、多くの非正規社員が職場を奪われた。

こうした職場状況のもとJP労組は、日本郵政に対し赤字問題についての経営責任を放棄し、郵政民営化見直しでは株式の早期売却を求め、多くの非正規社員が望んでいる正社員登用では「経営感覚がない」と実質的に反対する立場を表明、郵政関連労働者の要求や苦しみに向かい労使を向け労使一体化路線を突き進んでいる。

いま、日本郵政グループには20万人を超える非正規社員が働き、国民生活に響いてはならない仕事を行なっている。その労働実態は、年収200万円にも満たない低賃金、人間を人間として扱わない雇用形態、郵便事業会社の赤字を口実とした、65歳定年制の実施や雇止めなど、多くの非正規社員が職場を奪われた。

こうした職場状況のもとJP労組は、日本郵政に対し赤字問題についての経営責任を放棄し、郵政民営化見直しでは株式の早期売却を求め、多くの非正規社員が望んでいる正社員登用では「経営感覚がない」と実質的に反対する立場を表明、郵政関連労働者の要求や苦しみに向かい労使を向け労使一体化路線を突き進んでいる。

いま、日本郵政グループには20万人を超える非正規社員が働き、国民生活に響いてはならない仕事を行なっている。その労働実態は、年収200万円にも満たない低賃金、人間を人間として扱わない雇用形態、郵便事業会社の赤字を口実とした、65歳定年制の実施や雇止めなど、多くの非正規社員が職場を奪われた。

結成大会宣言

私たちがめざす労働組合である。

第一に、郵政関連労働者ユニオンの結成は、全労連、全労協というナショナルセクターの違いや、正規・非正規の分断をのりこえ、郵政関連労働者の新たな団結と運動を創造的に前進させ、日本の労働戦線の壮大な統一への方向性を示す役割も果たすことになり、新しい労働組合運動の方向性も確かなものとなる。

第二に、郵政事業の公共性の維持発展をめざし、国民・利用者とともにたかろう労働組合である。

第三に、資本からの独立、政党からの独立を原則に、協力・共同の発展と労働戦線の階級的統一をめざす労働組合である。

第四に、労働者の団結と国際連帯を強め、労働者の諸権利を維持・発展させ、世界平和の達成のために奮闘する労働組合である。

第五に、世界に誇る日本国憲法で明記された主権在民、基的人権の尊重、平和主義の憲法3原則を生かし、発展させる。

私たちが、一人ひとりの組合員の意志を尊重し、要求にもとづく団結を大切に、郵政ではたらくすべての労働者の期待にこたえる労働組合をつくっていく。

以上、私たちの宣言とする。

2012年7月1日

郵政産業労働者ユニオン結成大会

郵政産業労働者ユニオン結成大会